

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 24 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	グリーンツーリズム推進事業			
担当課係名	農山村体験デザイン室 課	係	作成者	田口聡美
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 39
	基本計画	グリーンツーリズムやエコツーリズムの推進		
	主要施策	グリーンツーリズム及びエコツーリズムの推進		
予算費目	一般 会計	6 款 農林水産業	1 項 農業費	3 目 農業振興費
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	なし			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営（一部民間委託） <input type="checkbox"/> 民間委託（全部） <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市としての魅力向上と地域の活性化対策のため。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	受入農家（開業農家）とグリーンツーリズム利用者数の拡大、体験別インストラクターの育成を目的とする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	農家民宿、体験受入体制の強化や情報発信を行う。

【事務事業の推移】

項 目		単位	23年度実績	24年度実績	
効果	活動指標 デザイン室ブログ投稿回数	目標	回	180	180
		実績	回	204	206
		達成度	%	113.3%	114.4%
	成果指標 農家民宿利用者数	目標	人	6,307	9,072
		実績	人	8,640	10,202
		達成度	%	137.0%	112.5%
投下コスト	項 目	総事業費	23年度決算額(千円)	24年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)		1,135	1,406	
	人 件 費 (B)		—	11,023	10,772
	職 員 数		—	1.30	1.30
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479	8,286
	(A) + (B) 投下コスト		—	12,158	12,178
	財源内訳	国 庫 支 出 金		0	0
		県 支 出 金		0	0
		地 方 債		0	0
		そ の 他		0	0
		一 般 財 源		—	12,158
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	59,598	59,117
	市民1人当たりのコスト(円)		—	409	414

【事務事業の今までの成果】

デザイン室では今年度からツイッターやブログに加えフェイスブックの活用を始めた。このことはグリーンツーリズム関係者等のSNS利用者のさらなる増加へも繋がり、平成24年度に受け入れを行った台湾やアメリカなど海外からの利用者と農家民宿との事前事後の交流を可能にし仙北市の農家民宿にとって新たに海外からの受け入れという選択肢を持つことにつながった。また農家民宿と他体験との組み合わせや観光関連事業との連携も積極的に行い仙北市TICでの農家民宿利用と体験をセットにした旅行商品の取り扱い開始に繋がった。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県庁や国でもSNSを活用した事業展開、情報発信を行う機関が増えてきている。また秋田県でも平成24年度からグリーンツーリズム担当部署を観光戦略課へ設置し観光関連事業との連携を強化している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	SNSの活用と併せて農村周遊型イベントなど新規事業をデザイン室が行うことによって足を運ぶ事になかった農家民宿や農山村地域へ行く機会を持つことが出来た。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	農山村の魅力について農村周遊型イベントやSNSでの情報発信など積極的に事業を展開してきた。その結果秋田県内外からの仙北市のグリーンツーリズムに対する関心や評価が高まり利用者も増加してきているため今後は受け入れ体制の強化を積極的に行っていく必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

受け入れ体制の整備についてはデザイン室の取り組みや農業体験受け入れの様子などを様々な媒体を使っての情報発信を行い併せて農家等への個別の説明を実施し受入農家の拡大に繋げて行く。農家民宿の開業についても実際に開業している方と接する機会や開業している農家へ足を踏み入れるきっかけを作りデザイン室で企画し理解を深めてもらう。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 2	豊かな農山村が広がる当市において、農家民宿や農作業等の体験を受け入れることは、観光客数の増加にもつながると考えられます。今後は増加傾向にある利用者に対応できるよう、受入体制の強化を図り、継続実施と考えます。

